

浮島現象。石狩浜から見た石狩湾新港の防波堤が宙に浮かび上がったように見えています。



石狩おばけ？——石狩湾の蜃気楼

冬の晴れた日、海に向かって見える船や陸地が、水平線から浮かび上がる——そんな不思議な光景を見たことはありませんか？もちろん実際に空中に浮かび上がるはずはありません。これは「浮島現象」と呼ばれるもので、一種の蜃気楼。石狩浜から見た場合、小樽の高島岬や浜益の雄冬岬、遠くの船などが空中に浮いて見えます。

蜃気楼とは、地表や海面付近の空気の温度差が大きいとき、光の異常な屈折によって幻の像が見える現象です。中国では蜃（ハマグリの化け物）が「氣」を吐いて幻の楼閣を出現させる、と考えられていました。

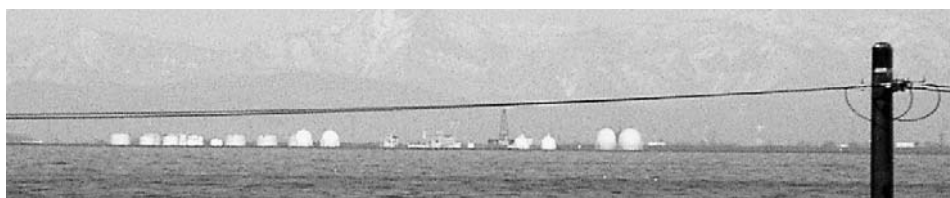
冷たい空気の下に温かい空気があると、光の屈折によって、遠くの景色の一部が地面や海面に鏡があって反射しているかのように見えます。そのため、船や陸地の下に空の一部が見え、あたかも宙に浮いているように見えるのです。夏のアスファルト道路で、雨が降ってもいないのに幻の水たまりが見える「逃げ水」も、まったく同じ原理です。どちらも幻の像（空など）が実体の下に見えることから「下位蜃気楼」といいます。たびたび見られ、特に珍しいものではありません。

それに対して対岸の陸地や建物などが上に伸び上がったように見える蜃気楼もあります。こちらは「上位蜃気楼」という珍しい現象で、限られた場所 yearly 数回ほど観測されるだけです。富山県魚津市で有名な蜃気楼はこちらのタイプ。対岸の本当は背の低い家並みが、伸び上がってビルのように見えます。

この上位蜃気楼、実は小樽でも見ることが分かっています。古くから地元の人に「高島おばけ」と呼ばれており、1846年には松浦武四郎も目撃しています。現在は小樽市新博物館開設準備室の大鐘卓哉さん（北海道・東北蜃気楼研究会会長）が研究しています。何度も観測しています。対岸の石狩湾新港のガスタンクなどが、まるで高層ビルのように高く伸び上がるのです。春から初夏、海

水温が低い季節に、陸地で暖められた空気が石狩湾上空に流れ込むことによって空気に極端な温度差ができるため、と大鐘さんは考えています。

小樽から石狩が蜃気楼になって見える——ということは、反対に石狩からも小樽の蜃気楼が見えるはず。大鐘さんは石狩からの目撃情報を知りました。4月6月の晴れた暖かい日が上位蜃気楼を見るチャンス。もし、石狩から小樽の街や高島岬が伸び上がっているのが見えたら、すぐに知らせてください！（志賀健司）



上の写真は、小樽から見た上位蜃気楼。石狩湾新港のガスタンクが伸び上がっています。下は実際の景色。（2004年4月29日大鐘卓哉さん撮影）

■文化財課・いしかり砂丘の風資料館 ☎62-3711

✉bunkazaih@city.ishikari.hokkaido.jp

■石狩浜海浜植物保護センター ☎72-3240

✉ihama@city.ishikari.hokkaido.jp